

1

子育て支援と未来を担う人づくり

安心して子育てができる環境を整備し、知恵と愛にあふれたグローバルな人材を育成します。



「こども・子育て八策」の推進

「大府市こども未来応援金（妊娠時5万円、出産時10万円）」の給付や家庭で子育てをする保護者が一時的保育サービスを無料で利用できる「家庭で子育て応援クーポン」の発行、産前・産後サポーターの派遣、国民健康保険税のこども減免制度の創設など、こども・子育て支援の「八策」を推進しました。



保育園の整備・誘致による待機児童ゼロの実現

公立の荒池・吉田保育園の建替え、民間認可保育園等の積極的な誘致（10園）と認可化の促進（4園）により、保育定員を平成27年度の2,270人から令和5年度の3,126人に大幅に拡大しました。

また、保育園等での紙おむつの処理（保護者負担なし）を始めるなど、保護者の利便性の向上も図りました。



小中学校のトイレ洋式化とエアコン整備

児童・生徒の生活環境を改善するため、小中学校の全てのトイレを洋式化しました。また、夏と冬に快適な環境で学習できるよう、全ての普通教室・特別支援教室にエアコンを整備しました。熱中症対策として、体育館・武道場にもエアコンを整備し、災害による停電時に使用できるよう、LPガスバルクを設置しました。



食材費高騰分の公費負担と中学校給食費の無償化

大府市は、「自校方式」による給食を提供し、近年は有機野菜を使用するなど、食育にも力を入れています。また、食材費が高騰する中であっても、高騰分を公費で負担し、給食の質と量を確保しています。さらに、3学期からの新たな取組として、教育に関わる経済的な負担の大きい中学生の給食費の完全無償化を開始しました。



バイオリンなどの特色ある教育の推進

児童・生徒の多様な学びと豊かな経験の機会を創出するため、小学4年生のバイオリン授業やバイオリン学校訪問コンサートを実施するとともに、ICT・プログラミング教育、数学・英語検定料の補助と表彰制度の創設、民間プールを活用した専門的な水泳授業、平和教育など、市独自の特色ある教育を推進しました。



小学校敷地内での放課後クラブの運営

放課後クラブの専用棟・専用室を整備し、全ての公立放課後クラブを安全で移動の必要がない小学校敷地内で運営しています。また、大府市は小学校1年生から6年生まで定員を設けず受け入れるとともに、待機児童ゼロを継続しています。民間の放課後クラブの運営の継続を支援するため、移転費の補助を行いました。

その他、これまでの取組

- 1 こども医療費助成の対象年齢の拡大
(中学生まで→高校生まで)
- 2 一時的保育実施園の拡大
(令和元年度6園→令和5年度12園)
- 3 保育士等の確保のための民間認可保育園等、
民間放課後クラブの職員の処遇改善
- 4 ヤングケアラーに関する連絡会議の設置と
総合支援 (県モデル事業)
- 5 小学校への養護教諭補助員の配置 (小学校
全校に配置)

- 6 児童扶養手当受給世帯や住民税非課税
世帯の中学3年生の学習塾利用料の助成
- 7 高校生、専門学校生などの奨学金の拡充
(月額15,000円→月額16,000円)



こども「ど」まんなか応援サポーター宣言

これからの主な取組

- ・ 小中学校の給食費の段階的な無償化
- ・ 保育士配置基準の拡充
- ・ 土曜保育、一時的保育の充実
- ・ 不登校児童生徒の多様な学びの場と居場所づくり
- ・ 小中学校のエレベーターの計画的な設置
- ・ 放課後クラブにおける長期休業期間中（夏休み等）の昼食の提供
 - ・ 国民健康保険税こども減免の拡充
 - ・ 子育てを包括的に支援する「こども家庭センター」の設置
 - ・ こどもの屋内遊戯施設の整備検討

